

南池袋二三四町会地域の災害リスク 町内会防災部の活動 (これまでと今後)

1. 災害リスク、
2. 救援センターの運営訓練、
3. 町内会の防災訓練、
4. 災害時避難行動要支援者名簿
5. 経費

南池袋二三四町会 防災部長 北村弥生
2020.10.18 (2022.10微修正)

災害とは(ウィキペディア)

- 暴風, 豪雨, 豪雪, 洪水, 高潮, 地震, 津波, 噴火その他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害(災害対策基本法) + パンデミック(新型感染症)
- 自然災害に加え、大規模な人為的事故(鉄道、航空、船舶災害や市街地火災)も含まれる。
- 地震では震度5強を、参集の基準にしている組織が多い。
- 通常は、人間生活が破壊されて何らかの援助を必要とする程の規模のものを指し、それに満たない規模の人災は除かれる→「過去に被害がない」は「居住者がいなかった」場合もある。

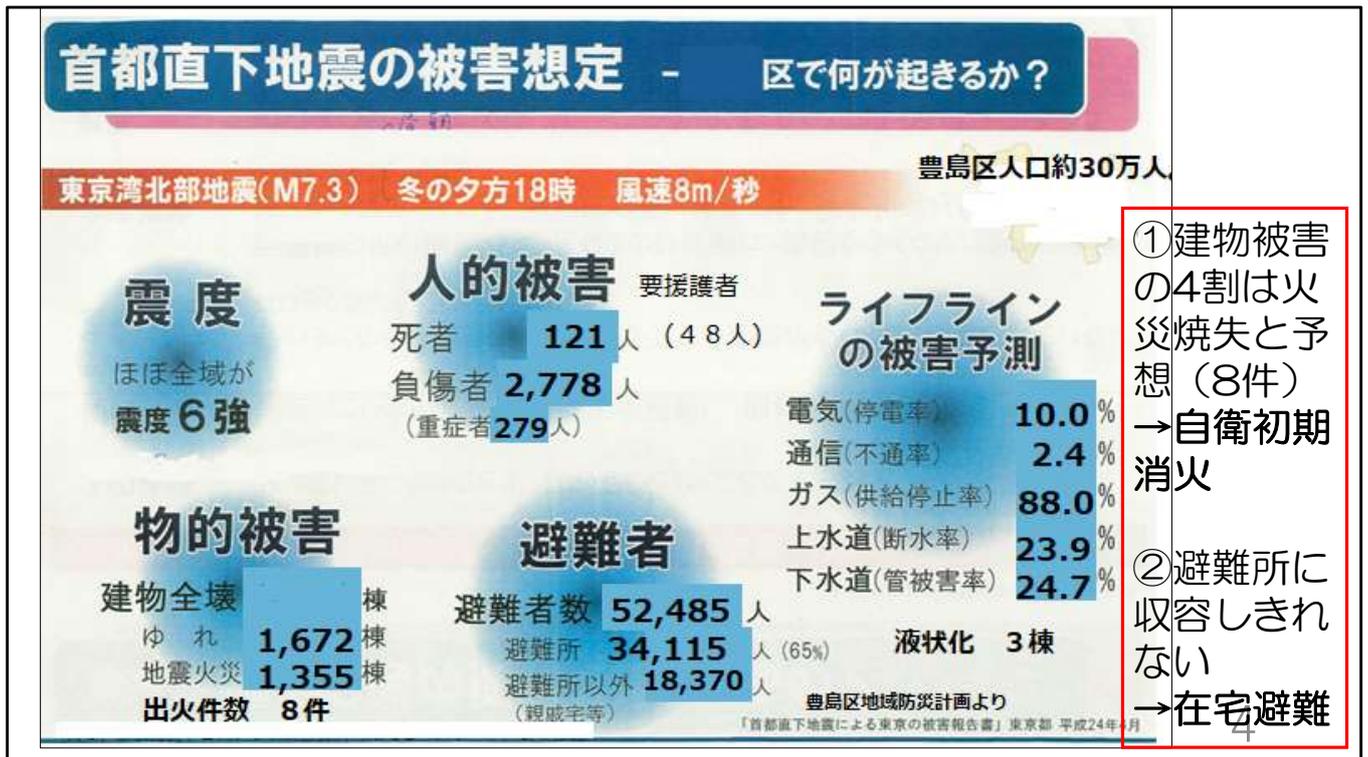
1. 南池袋二三四町会地域が注目する災害リスク

- 大地震(首都直下型地震)

⇒ 火事・停電・断水・EV止・建物倒壊
(自助、共助)

- 新興感染症

⇒ 各自:2週間分の備蓄、除菌用品



「震度6強の地震の時、何が起こるか」についての、豊島区の試算を示します。

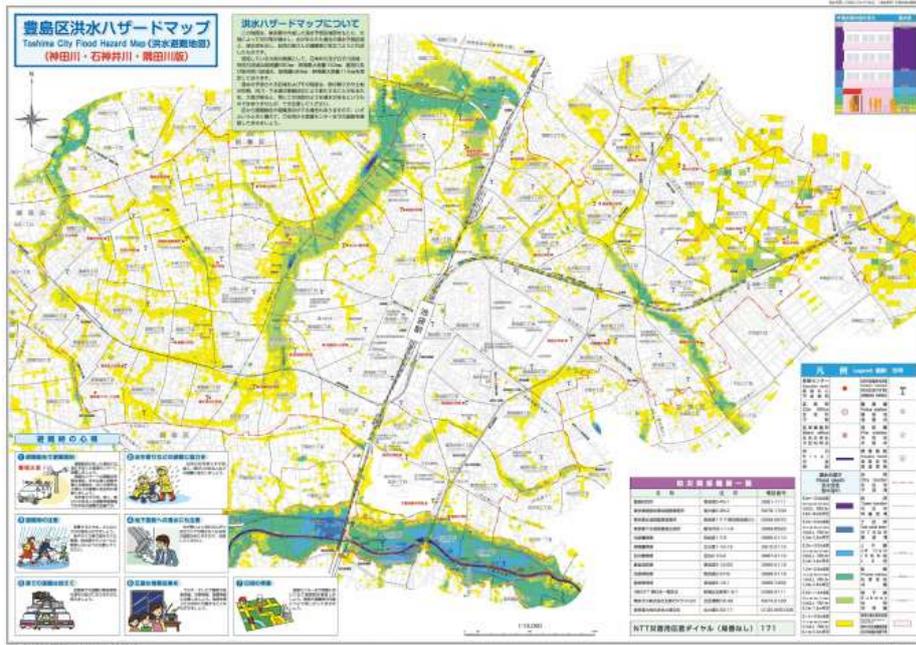
重要なのは2点です。第一は、建物被害の4割は火事によるということです。阪神淡路大震災の経験から、消防は消火を優先することになりましたが、すべての火事につけられられません。火災発生件数が8というのは意外に少ないと感じましたが、地域での初期消火が重要です。町会に割り当てられた消火設備については、後のスライドでお示しします。

第二は、避難所には、すべての避難を必要とする人を收容しきれない、ということです。火事や家屋の倒壊があった人であっても65%しか收容できない計算です。コロナ禍にあっては、さらに減少します。ですから、在宅避難や知人の家、遠方への避難を準備する必要があります。

スライドの元は新宿区の資料をかったので、下の数値は新宿区のもので、豊島区と比べてみてください。

まず、死者300人・負傷者7000人。建物の全壊6000棟。全壊のうち火事による焼失は4割と予想されています。避難者7000人のうち避難所に入れるのは65%です。ライフラインで一番被害が大きいのはガスで75%、水道が35%、下水が28%、電気21%、通信5%と予想されています。断水や通信停止は、意外と少ないと感じるかもしれませんが、ある地域は100%不通になります。また、電力配信の拠

点が被災すれば配信先100%が停電します。だから、すべてのライフラインが止まった場合の準備をしておいた方がいい、と思います。令和元年台風15号では、強風で電信柱と木が倒れて停電が長期に継続しました。



想定している大雨の規模は、石神井川及び白子川流域・神田川流域は総雨量690mm・時間最大雨量153mm、隅田川及び新河岸川流域は、総雨量589mm・時間最大雨量114mm。

・令和元年台風19号での上流(秩父)での総雨量は511mm(豊島区では250mm)

→二三四町会区域の雨による浸水リスクはほぼない(地下、半地下は要注意)

時間30mmを超えて排水能力を超えると道路の一部で冠水が起こる

<https://www.city.toshima.lg.jp/bosai/taisaku/hazard-map/index.html>

5

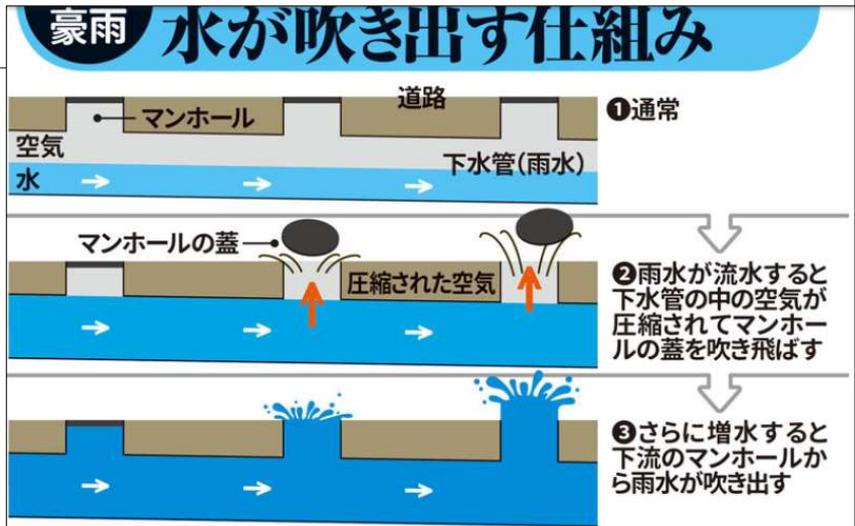
令和元年台風19号の記憶が新しいところですので、水害についてもリスクを確認します。まず、豊島区のホームページから洪水ハザードマップをみます。南の神田川沿いと北西部に一部浸水危険地区がありますが、二三四町会の区域は浸水リスクはありません。平成2年以降の浸水事例もネットで検索できましたが、ほとんど浸水箇所は町会地区内にはありませんでした。ただし、半地下の駐車場などは浸水の危険はあります。

マンホール

2008-08-15

8月5日、都心を襲った集中豪雨による、急激な増水のために、東京都豊島区雑司が谷のマンホール内で下水道工事をしていた作業員5人が流された。8日午後には、行方不明だった方の遺体も見つかり、流された5人全員の死亡が確認された。

事故現場となった場所は、副都心線・雑司が谷駅や都電荒川線・鬼子母神(きしもじん)駅から歩いて数分の住宅街だ。8月5日の雑司が谷は、昼近くになって雷を伴う雨が急激に降り出した。雷が避雷針に落ちて、電化製品が壊れた家もあったそう。



→1時間雨量が50mmを超えると、マンホールの蓋は飛び出すことがある（エアを逃がすGV蓋が50万個中3000個に設置：東京都、マンホールに鎖がついている場合もある）
→内水氾濫で空いたマンホールに落ちた事故の報道は見当たらない

6

2008年に、近隣で、集中豪雨時にマンホールで作業中の方が亡くなったという話がありましたので、大雨でマンホールが空いてしまうのはなぜか、について、調べてみました。

<https://news.goo.ne.jp/article/kurumanews/trend/kurumanews-284257.html#:~:text=%E5%A4%A9%E6%B0%97%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%88%E3%81%AB,%E8%B1%A1%E3%80%8D%E3%81%A8%E5%91%BC%E3%81%B3%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>

<https://weathernews.jp/s/topics/201809/180245/>

<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/281379>

マンホール



猛烈な雨の影響でマンホールから噴水のように吹き上がる雨水（2014年8月16日午後0時半、京都市中京区堀川通御池下ル）

- マンホールの蓋は滑りやすい（スリップ防止付きもある：デザインが違う）
- 吹き出す水は雨水だけの場合と汚水が混ざった場合がある
- 大地震でも液状化現象で、マンホールが持ち上がることは知られている

7

そもそも、マンホールの蓋は滑りやすいので、道路が冠水してマンホールが見えないと危険という指摘がありました。

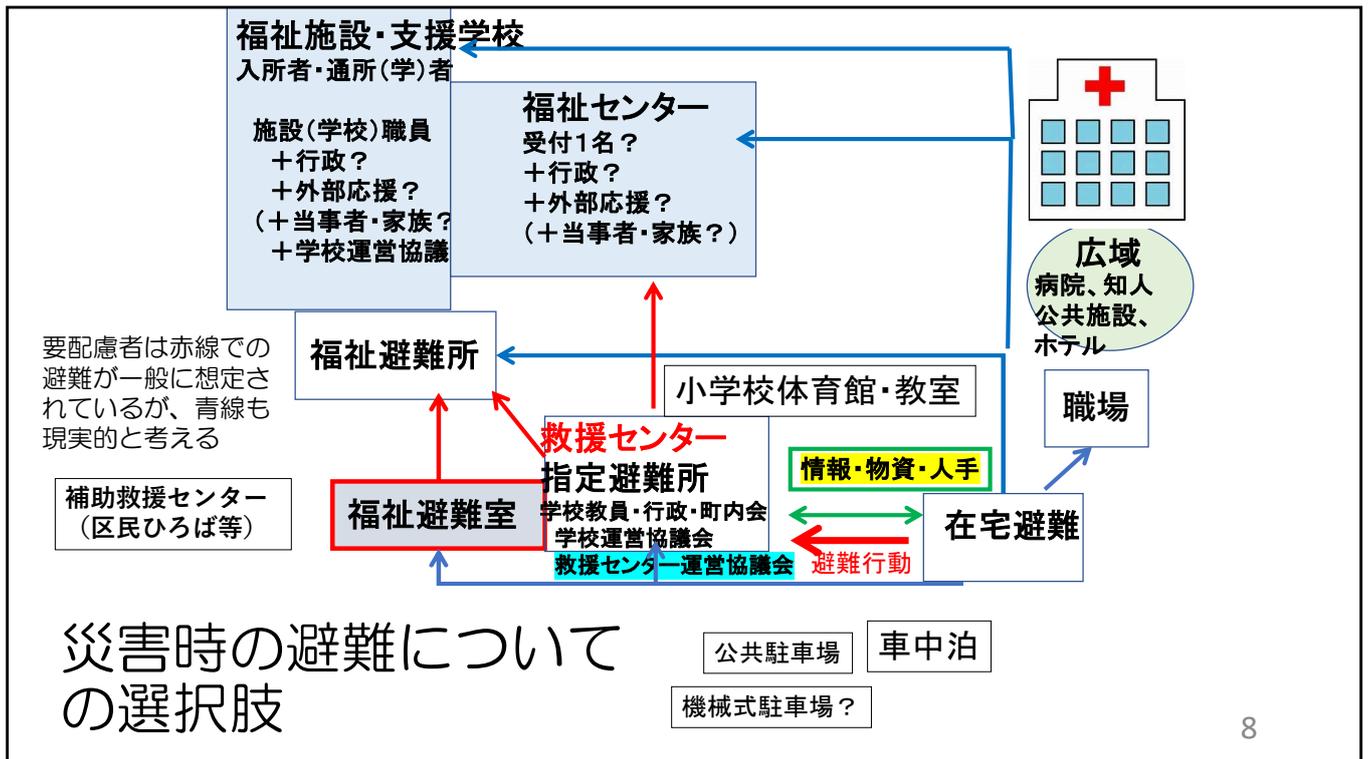
また、マンホールの蓋が外れた場合に、吹き出す水には汚水が混ざっていることもある。ということですので、冠水した道路を歩くのは衛生的ではありません。

地震の後の液状化現象については、町会地区内での経験は聞いていませんが、新しいマンホールもありますので、絶対ないとも言えません。

<https://news.goo.ne.jp/article/kurumanews/trend/kurumanews-284257.html#:~:text=%E5%A4%A9%E6%B0%97%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%88%E3%81%AB,%E8%B1%A1%E3%80%8D%E3%81%A8%E5%91%BC%E3%81%B3%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>

<https://weathernews.jp/s/topics/201809/180245/>

<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/281379>



大きな地震が起こった時の避難先を図に示しました。

まず、全国的に在宅避難が勧められています。避難所はよい環境とは言えないからです。

家が壊れたとか、火事が迫っているとか、余震で壊れると怖いというときには、熊本地震では、車中泊が多かったです。そのための公共駐車場を熊本では作っています。

都心では、駐車場は、そんなになくて、大地震の後、機械式の駐車場が動くのかさえ、怪しいです。

一般には小中学校が指定避難所、一次避難所になります。避難所の運営をする組織を立ち上げつつある市区町村もありますが、豊島区は、今年度、本町会発で声をあげはじめ、連合町会に防災部会を作ることをご区役所に提案したところです。

指定避難所の中をどう使うかは、まだ、はっきり決まっていな学校が多いと思います。コロナ前の3年間で、豊島区では、すべての指定避難所で、教室をどう使うか、というワークショップを行い案はできています。南池袋小を指定避難所とする11町会の代表各5名程度が集まり、町会ごとに出した案を、区役所が取りまとめて色付きの図を作りました。

高齢者や妊産婦、障害者の部屋を、どこの教室にするかというプランです。

福祉避難所は、規定では、指定避難所に来た人のうち、ここでは無理、という人を、移動させるということになっています。

もともとは、体育館で過ごしていて、1週間くらいして肺炎になって入院した高齢者を、また、同じ環境に戻したら、同じことが起こるので、別の施設に、という発想でした。

ただ、誰が、どういう基準で、福祉避難所に行く人を判定するかは、多くの自治体（市区町村）では決まっています。

福祉避難所の運営訓練も、ほとんど行われていませんし、収容人数も少ないので、すべてのニーズのある人が福祉避難所に行けるわけではありません。

そうすると、要配慮者であっても、福祉避難室か体育館での過ごし方を考えることになります。

福祉避難所には、学校や施設のように、使っている人がいるところと、福祉センターのように貸し会議室のようなところがあります。

学校や施設は、利用者がいるので追加で入れる人の数は、そう多くありません。貸しホールであれば、多くの人が入れますが、最近、委託管理で、受付にしか人がいないと、実質、運営できないので、すぐに開設できません。福祉避難所は、あまりうまく動きようがない、という気がします。

他に、広域避難といって、被害のないところ、少ないところに移動する方法があります。移動手段の問題はありますが、透析をしている人は水と電気があるところに、2週間から1か月行った方が健康的だと思います。知り合いのいるところ、被災経験があって対応が円滑などの候補をあらかじめ調べておきます。問題は、滞在費と移動費です。ATMは使えませんから、ある程度の現金は必要です。滞在費に、どこかの資金援助を使うことも考えないといけません。

他には、職場に行く人もいるかもしれません。

2. 南池袋小学校に避難する11町会対象の訓練 救援センターの自主運営を目指した試行錯誤

2013, 2014, 2015 南池袋小(二三四町会:福祉部/11町会)

車いす操作、斜面での昇降

2016 災害想像力ゲーム DIG(池袋防災館:地域の地図上で災害時の危険・資源を探す 11町会各町会1テーブル)

2017 南池袋公園(4月末)

2018 避難所運営ゲーム HUG 簡易版(2017-2019:3年間で区内全小学校, 区役所 11町会各町会1テーブル:としま防災女子ネットワークメンバーによる指導、2019:女性リーダー研修)

2021.2.21 避難所の入り方など(11町会各3~5名;会長、防災部長他) → COVID-19の流行により中止

令和3年度 避難所運営キットの使い方

→ COVID-19の流行により 開設キットを改変し、訓練延期

9

南池袋小学校に避難する地区について、これまで、どんな防災訓練が行われたかをご紹介します。

2013年から3年間は、11町会が集まり、校庭で、色々なブースを巡回する方式でした。備蓄倉庫の見学、炊き出し用のガスバーナーの使い方、毛布担架の作り方、ペット避難、消火器訓練、バケツリレーなどを記憶しています。

11町会はそれぞれ役割分担されていて、南池袋二三四町会は福祉部を割り当てられていました。車いす操作や斜面走行のデモンストレーションを、障害者団体をお招きして行いました。

2013年には、池袋防災館の会議室で、DIG 災害想像力ゲームを行いました。町会ごとに5名程度が参加して、地域の地図から、危険や資源を探し、地域のリスクと強みを確認しました。

2017年から2019年には、先ほどお話しした、学校の教室わりについてのワークショップを行いました。南池袋小では2018年に行いました。これは、避難所運営ゲームHUGの修正版で、先日、ご案内した東京都の防災ウーマンセミナー講師の浅野先生に講師を依頼しました。浅野先生は、豊島区在住で、としま防災女子ネットワークも組織しています。5名からなる小さい組織で、北村もメンバーです。

2019年には、浅野先生を始め、としま防災女子ネットワークが協力して、豊島区の女性リーダー研修を行いました。約100名の受講生がありました。残念ながら、この地区に受講者がいるかどうかの確認を第三者である町会から確認することはできませんでした。

地域の人誰でも参加できる以前のような防災訓練は、町会主催で、2017年以降も4月末に南池袋公園で行われていたようです。高層マンションの管理組合の総会と日程が重なって、私は防災訓練に出席ができていませんでした。

2020年には、避難所運営キットを区役所が作成し、その使い方の訓練を行う予定でしたが、コロナの発生により、キットに修正の必要ができたので、その訓練は、2022年度から開始と聞いています。2021年度は、それに先立って、コロナ対策で何を準備したか、避難所をどう開けるかの訓練が、2月21日に行われる予定でしたが、コロナの流行で中止になりました。すでに、近隣に住む区役所職員を対処にした同様の訓練は、今年度夏に行われています。

小学校の備蓄倉庫

1000人来たら、一人当たり

クラッカー:1.7袋?

アルファ化米:1.5袋

飲料水:500mlx2本?

毛布:1枚

カーペット:1枚

豊島区地域防災計画(資料編)

⇒ 各自で備蓄が必要:例

段ボールベッド:10

間仕切り

簡易トイレ

マンホールトイレセット

発電機

投光器

医薬品



段ボールベッド
「ニュー簡太く
光永
¥8,590



ワイス ワイス(WAISE) アルミレ
ジャーマット ロール M 約
50×180cm OB-021
★★★★☆ 40
¥478 ~~¥925~~

10

小学校には、区役所の備蓄倉庫があります。どの程度の物があるのかをお示しました。

段ボールベッドはカビてしまうので10個しかありません(その後、キャンプ用ベッドが10個追加されたそうです、2022年10月現在)。各自で敷物は用意しないと、災害時に床に寝ることになります。

ハリアー、D級ポンプの点検、発動発電機

・ハリアー(3個:資材倉庫):水道につながる ⇒ 屋外水道の確認(使用協力のお礼?)

・D級ポンプ&燃料&発電機(ふれあい広場:カギは会長、副会長)

年3-4回程度の点検を自主的に実施する、点検の報告義務はない

資器材格納庫(カギは会長、副会長):非常用発電機(令和2年:都と区が半額ずつ;ポンペ36本)→災害時には避難所にもっていく、お祭りなどで使用



誰が使うか?



古い発電機は
廃棄(R2.11.)

カギはないが開かない、何が入っているか未確認
消防団、区役所に確認予定

12

町内会では、区役所から支給された初期消火の機材を管理しています。

ハリアーは、水道に直結でき、背中にしよって使う簡易式の消火機です。資材倉庫に保管してあります。

本来は、屋外に保管し、屋外での放火に効果を発揮する器材ですので、使い方、保管については検討が必要です。

平時の火事では、消防署を呼べばよいのですが、大規模地震時に消防署が来ない場合、延焼を食い止めるために使います。

もし、自分の家の近所で火事が起こったら、どこの水道を使うか、どこから持ってくるかを、考えておく必要があります。

D級ポンプは、もう少し強力な消火機材で、ふれあい広場のピンクの扉の中に格納されています。

発電機は、令和2年にカセットボンベ式に更新されました。カセットボンベ36本とともに、ふれあい広場の防火倉庫に保管してあります。

災害時には避難所に持っていくことが配置の規約に書いてありますが、平時は町会のイベントなどで利用することが奨励されています。

もともとは、令和元年台風15号での停電の経験から、スマホの充電などに使うために都と区の助成により導入されました。

4. 災害時避難行動要支援者名簿

- H29:区役所から町会長・防災部長に提供(H27年ごろの情報)
65名(物故者、施設入所者含:障害者手帳1, 2級、要介護度3以上)
名簿に電話番号、独居かどうか、転出者についての情報がなかった
平成30年に名簿登載者にアンケート調査:61名→52名
 - ⇒ 9名:物故,施設入所; 31名59.6%から回答
南池袋小まで移動不可2名、介助があれば移動できる11名
 - ⇒ 地区委員に地区内の名簿登載者について情報提供(管理ルールを決めたい)
 - ⇒ 前回アンケート回答で気になる人(独居高齢者、移動できないと回答した人、回答がなかった人)
 - ⇒ どこまで、町内会で対応できるか要検討
(例)行事参加に同行、防災訓練時に備蓄サンプルの提供

14

町会には、区役所から災害時避難行動要支援者名簿も届いています。
令和2年当時は、町会長が保管していました。

町内で65名が登録されていましたが、電話番号、独居かどうかも記載がなく、名簿登載後に施設入所したり亡くなる方もあるので、平成30年にアンケート調査をしました。結果を、ポストインして歩きましたが、表札がない場合も多く、すべてのお宅は確認できませんでした。

回答いただいた中では、小学校まで移動できない人2名、介助が要る人が11名という結果でした。地域内で、どう支援するかについて、検討していきたいと考えています。

令和2年は、コロナのために防災訓練ができなかったので、期限切れの備蓄については、名簿登載者でアンケートにご回答いただけなかった方に、家庭訪問してお渡ししたいと考えています。

5. 経費

収入：区政推進活動費

- 区役所市民生活推進課担当
 - 国勢調査居住者数に応じた額：均等割＋世帯割
- 防災力向上活動：136,800円 ⇒ 会員数でなく居住者で計算

支出：豊島防火防災協会 会費

- 年会費12,000円(国勢調査世帯数)

地区内人口 1400世帯
町内会会員 900世帯未満（6割程度）

15

町会の防災関係の費用を確認しました。

区役所からは、毎年、居住者数にあわせて防災力向上活動のために136,800円が町会に出ています。居住者で計算すると一世帯100円ですが、町会の防災活動は町会会員だけでなく地域住民を対象に考えるのがいいという根拠になると思います。今後、町会の防災訓練に、会員以外も積極的にお誘いしたいと考えています。

支出としては、豊島防火防災協会に会費を納めています。これも、世帯数で割られています。

みんなで作る二三四町会 みんなで行う災害準備(町会防災部だけでなく)

- 救援センター運営への協力(リーダー:回覧板で募集、その他)
- 初期消火活動への協力者

- 危険個所や防災資源を地図に落とし込むような街歩き訓練
(令和元年度に1回目、令和3年度に2回目)

- 災害時避難行動要支援者の再調査、個別避難計画を一例ずつ検討
(令和2年:備蓄を持っていくところから)

- お祭りや平時のイベントの時に、「災害準備も」を入れ込みたい。例えば、物資配給・安否確認などの訓練を兼ねるような方法を考えたい

- マンション・アパートでの災害準備(マンション内の班?)

16

「みんなで作る二三四町会」は、今年の町会長の目標ですが、防災活動については、まさに、町会や防災部だけの活動ではなく、地域住民全員を意識していきたいと思っています。

(参考)

豊島区社会福祉協議会

(区民ひろば高南第二:コミュニティソーシャルワーカー)

- ・災害ボランティアセンターを開設
区内外のボランティア(清掃、補修、保育、運搬)を配分
地域のニーズを収集:ニーズ集約を町内会長、民生委員がすると早く支援を受けられる
- ・地域支援サポーター育成(高齢者サロン、子ども食堂)
近隣大学とつなぐ
- ・リボンサービス(700円/時) 家事援助、外出介助、話し相手
- ・困りごと援助サービス(高齢者用:500円/時、電球交換など) → 除雪
- ・ハンディキャブ(700円/時):リフト付き自動車

17

参考として、周辺情報です。

災害時にボランティアセンターを開設する組織は社会福祉協議会です。

外部からのボランティアの受付をして、地域のニーズとのマッチングをします。

泥かき、瓦礫撤去、清掃などは、テレビでも紹介されています。その他に、片付けの間に、子どもや高齢者の世話をすることなど、地域のニーズは、どの被災地でも、なかなかあがってきません。みんな遠慮したり、外部ボランティアへの警戒心もあるからです。そこで、被災地では、町会や民生委員に地域のニーズの拾い上げを依頼することが多くなっています。

災害時には、地域のニーズの集約を町会で行うことで、効率的なボランティア活用ができると考えます。

社会福祉協議会(社協)は、平時には、地域支援サポーターを養成したり、リボンサービスなどのサービス提供をしています。

困ったことがあった時、困っている人を見かけたときに、思い出していただければ、と思います。

① 車いすの人・足が悪い人

- ・扉を押さえて開けておく、階段で手を支える
- ・列に入りにくいので、順番をゆずる
- ・車いすごと運ばれることを希望する人が多いですが、無理のないように、助けを呼びに行くのも大事
- ・階段で手動車いすを運ぶときは4人で顔を高い方に
- ・人と車いすを別々に運ぶ方が安全なこともあります
- ・障害が重度だと体幹保持ができなくて、おんぶや組手で運ぶのが危険な場合もあります



- ・車いすはロックをする
- ・車輪を持たない



② 知的障害・発達障害・精神障害・認知症の人

- ・危険を知らせ、安全な避難方法を伝えます
- ・安全な行動をするように見守ります
- ・その場の責任者に、支援が必要な人がいることを伝えます

18

最後に、障害のある人への介助方法の基本をご紹介します。

人により、快適な方法は違うので、あくまでも基本です。それぞれの方に、どうしたらいいかを、ぜひ、聞いて下さい。

また、助けてもらう人も、知らない人に頼むことには慣れていません。自分にはできないことを頼まれたら、「これならできる」「こうしたらどうか」と、調整することが大事です。

「平時にできないことは、災害時にはできない」ので、平時から、助け合う意識と技術を持ちたいと思います。

宜しくお願い致します。

③聞こえない人、聞こえにくい人(手話がわかる人とわからない人がいます)

- ・アナウンスの内容を手ぶりや筆談で伝えます
- ・筆談のコツ (マジックとノート/スマホのメモ帳)
 - ・指で作った丸程度の大きさ
 - ・短く書く
 - ・書いたら相手の顔を見て、伝わったかどうかを確認
- ・UDトークというスマホアプリ(無料)では音声を文字化します、外国語への翻訳機能もあります



火事なし。右出入口から避難。左出入口だめ。



④視覚障害者(全然見えない人、視野が狭い人、細かいところまで見えない人等多様です)

- ・頭の上、足元などの危ない場所を教えます
- ・手を引っ張ったり、背中を押したりしないで、肘や肩に手をかけてもらって普通に歩きます。
- ・立って待つときは壁や机の端など、手掛かりがあるところに案内します
- ・立ち去るときには伝えてください
- ・盲導犬は道案内や信号を読むことはできません。初めての場所に行くときは、誘導が必要です。



19